

作物統計調査

令和8年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収穫量（北海道）

令和8年産主食用米収穫量（生産者ふりい目幅1.90mmベース）は前年産に比べ1万2,300tの増加の見込み。

なお、主食用米収穫量（ふりい目幅1.70mmベース）は前年産に比べ1万8,700tの増加の見込み。

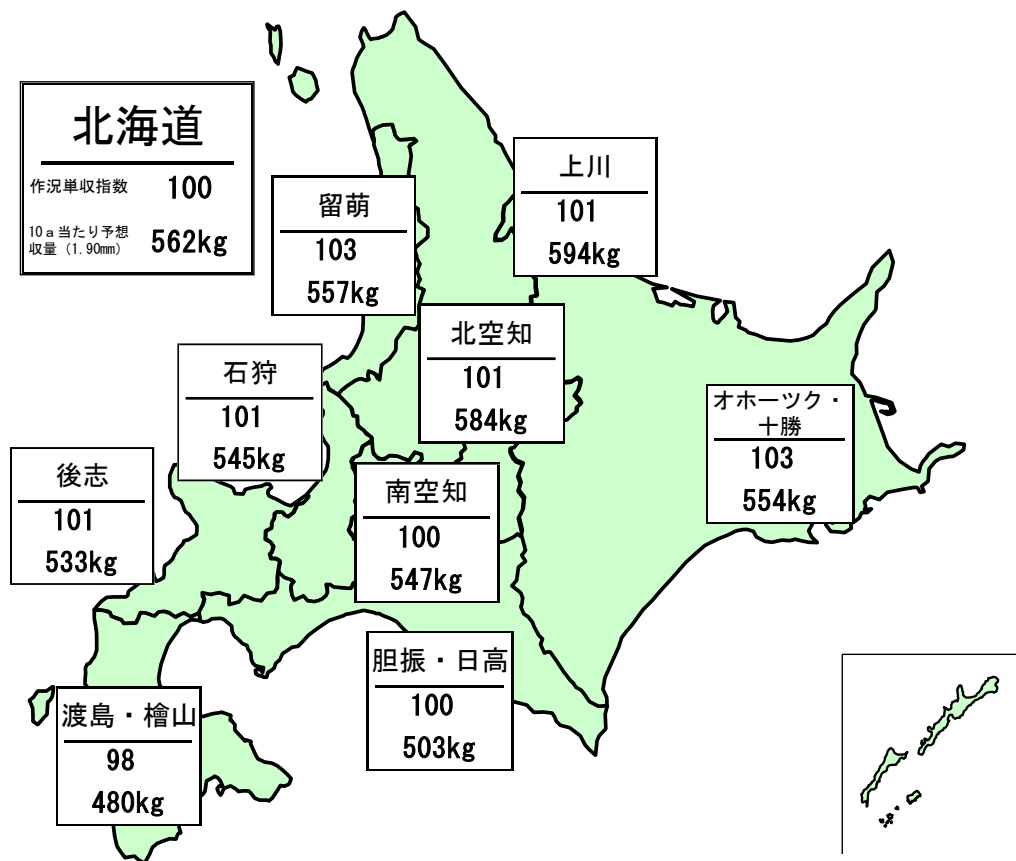
【調査結果の概要】

北海道における令和8年産水稻の予想収穫量（主食用）※1は50万8,600t（前年産に比べ1万2,300t増加）と見込まれる。

これは、北海道における令和8年産水稻の作付面積（主食用）は9万500ha（前年産に比べ100ha増加）と見込まれることに加え、9月25日現在における水稻の10a当たり予想収量※1は562kg（対前年比102%）と見込まれるためである。

また、作況単収指数※2は100と見込まれる。

図1 作柄表示地帯別作況単収指数及び10a当たり予想収量※1（9月25日現在）



※1： 生産者が使用しているふりい目幅1.90mmベースのふりい上米。

※2： 作況単収指数は、生産者が使用しているふりい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である（7ページの【参考1】参照）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である（令和8年産は予想）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である（令和8年産は予想）。
- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り調査による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。

表1 令和8年産水稻の作付面積（主食用）及び9月25日現在の予想収穫量（北海道）

区 分	作付面積（主食用）			生産者が使用しているふるい目幅で選別（1.90mm）					作況 単収 指数
				10 a 当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい上米））			
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との 比較	実 数 ③＝①×②	前年産との比較		
		対 差	対 比				対 差	対 比	
北 海 道	ha 90,500	ha 100	% 100	kg 562	% 102	t 508,600	t 12,300	% 102	100

区 分	ふるい目幅1.70mmで選別				
	10 a 当たり予想収量		予想収穫量 （主食用（生産者ふるい下米含む））		
	実 数 ④	前年産との 比較	実 数 ⑤＝①×④	前年産との比較	
				対 差	対 比
北 海 道	kg 594	% 103	t 537,600	t 18,700	% 104

- 注：1 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり予想収量及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a 当たり予想収量については、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a 当たり収量の比率である。

【調査結果】

1 作付面積

令和8年産水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）は10万9,600haで、前年産に比べ3,500ha増加した。

なお、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた作付面積（主食用）は9万500haで、前年産に比べ100haの増加が見込まれる。

2 作柄概況（前年との比較）

- (1) 全もみ数は「多い」となった。これは、活着期から分けつ期にあたる5月下旬から6月上旬にかけて高温で経過したことや6月中旬以降は概ね平年並みの気温で経過したことから分けつが順調に進んだことで穂数が前年を上回ったためである。
- (2) 千もみ当たり収量は「やや少ない」と見込まれる。これは、出穂期からその後の登熟期間は多照で推移しているものの、もみ数が多くなったことによる、相反作用があると見込まれるためである。
- (3) この結果、9月25日現在における北海道の10a当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、562kg（前年産に比べ13kg増加、対前年比102%）、作況単収指数は100が見込まれる。
- (4) 9月25日現在における北海道の10a当たり予想収量（ふるい目幅1.70mmベース）は、594kg（前年産に比べ20kg増加、対前年比103%）と見込まれ、ふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は53万7,600t（前年産に比べ1万8,700t増加、対前年比104%）と見込まれる。

表2 令和8年産水稻の作付面積及び9月25日現在の予想収量
(作柄表示地帯別)

北海道・ 作柄表示地帯	作付面積（青刈り面積を含む。）			生産者が使用しているふるい目幅で選別(1.90mm)		ふるい目幅1.70mmで選別		主な収量構成要素（前年比較）				作況 単収 指数	10 a 当たり 平均収量
	実 数	前年産との比較		10 a 当たり予想収量		10 a 当たり予想収量		穂数の多少	1 穂 当 た り も み 数 の 多 少	全 も み 数 の 多 少	千もみ当たり 収量の多少		
		対 差	対 比	実 数	前年産との 比較	実 数	前年産との 比較						
	ha	ha	%	kg	%	kg	%						kg
北海道	109,600	3,500	103	562	102	594	103	多い	前年並み	多い	やや少ない	100	560
石 狩	7,910	430	106	545	101	577	103	多い	前年並み	多い	少ない	101	542
南 空 知	20,600	1,100	106	547	100	586	102	多い	前年並み	多い	少ない	100	546
北 空 知	28,300	900	103	584	104	616	104	多い	前年並み	多い	やや少ない	101	580
上 川	29,900	600	102	594	105	618	104	多い	やや少ない	やや多い	前年並み	101	591
留 萌	4,270	140	103	557	107	578	107	多い	やや少ない	多い	前年並み	103	539
渡島・檜 山	7,760	320	104	480	98	517	100	やや多い	前年並み	やや多い	少ない	98	491
後 志	5,040	40	101	533	101	550	101	多い	前年並み	多い	やや少ない	101	527
胆振・日高	5,050	80	102	503	99	524	99	前年並み	やや少ない	やや少ない	やや多い	100	505
オホーツク・十勝	841	△ 16	98	554	103	592	106	多い	前年並み	多い	少ない	103	540

- 注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。
- 2 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり予想収量は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 3 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10 a 当たり予想収量については、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
- 4 本表における主な収量構成要素の前年比較区分は、「多い」が対前年比106%以上、「やや多い」が105～102%、「前年並み」が101～99%、「やや少ない」が98～95%、「少ない」が94%以下に相当する。
- 5 作付面積（青刈り面積を含む。）については、四捨五入の関係で合計値と内訳の計が一致しない場合がある。
- 6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10 a 当たり収量の比率である。
- 7 10 a 当たり平均収量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）である。

【累年データ】

表3 水稻の年次別推移(北海道)

年 産	作 付 面 積 (青刈り面積を 含む。)	主食用	生産者が使用している ふるい目幅で選別 (1.90mm)		ふるい目幅 1.70mmで選別		収 穫 量 (主食用 (生産者ふ るい下米含む))	作況 単収 指数
			10 a 当たり 収 量	対前年比	10 a 当たり 収 量	対前年比		
	ha	ha	kg	%	t	kg	%	t
令和3年産	103,300	88,400	570	102	503,900	597	103	527,700
4	101,500	82,500	563	99	464,500	591	99	487,600
5	101,700	82,200	555	99	456,200	579	98	475,900
6	102,800	83,700	562	101	470,400	592	102	495,500
7	106,100	90,400	549	98	496,300	574	97	518,900
8 (概数値)	109,600	90,500	562	102	508,600	594	103	537,600

資料：農林水産省統計部『作物統計』

注：1 作付面積（青刈り面積を含む。）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積である。

2 作付面積（主食用）とは、作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

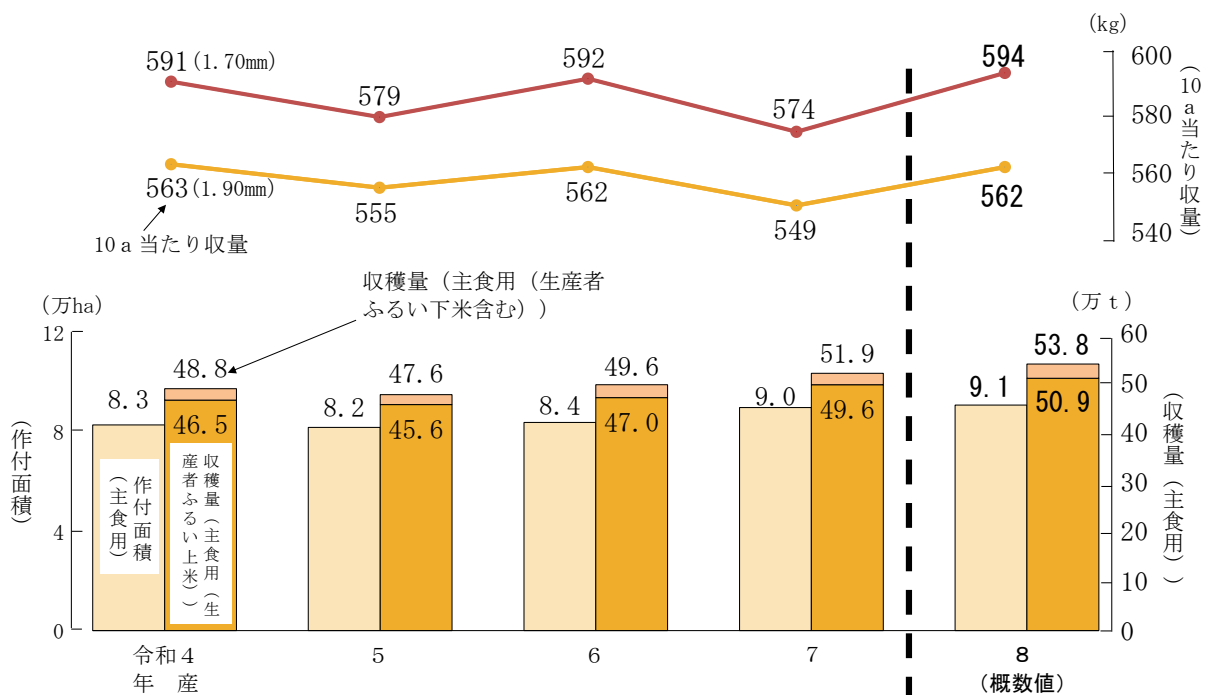
3 令和6年産まで収穫量（主食用）として公表していたふるい目幅1.70mmの収穫量（主食用）は、令和7年産以降、収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））と表記することとした。

4 生産者が使用しているふるい目幅で選別された10a当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅で選別された玄米の重量である。（令和8年産は予想）

5 生産者が使用しているふるい目幅は、過去5か年に北海道の生産者が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅である。

6 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く）に対する10a当たり収量の比率である。

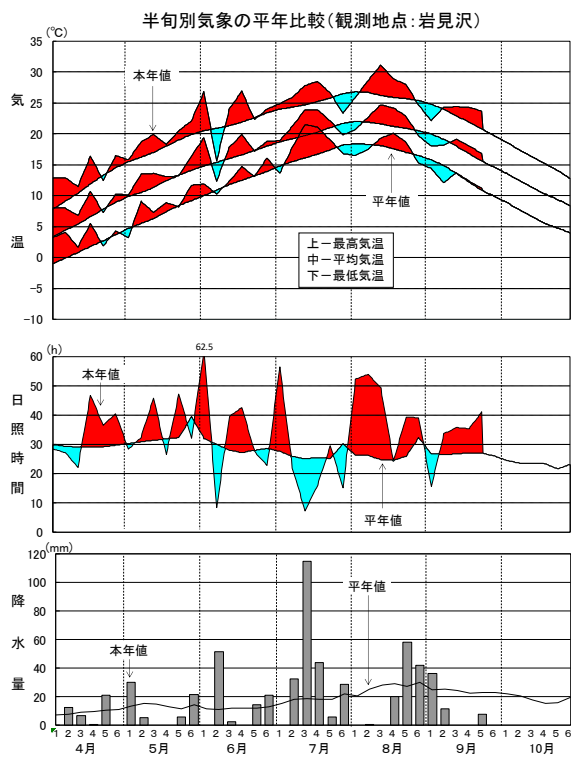
図2 水稻の作付面積（主食用）、10a当たり収量及び収穫量（主食用）の推移
（北海道）



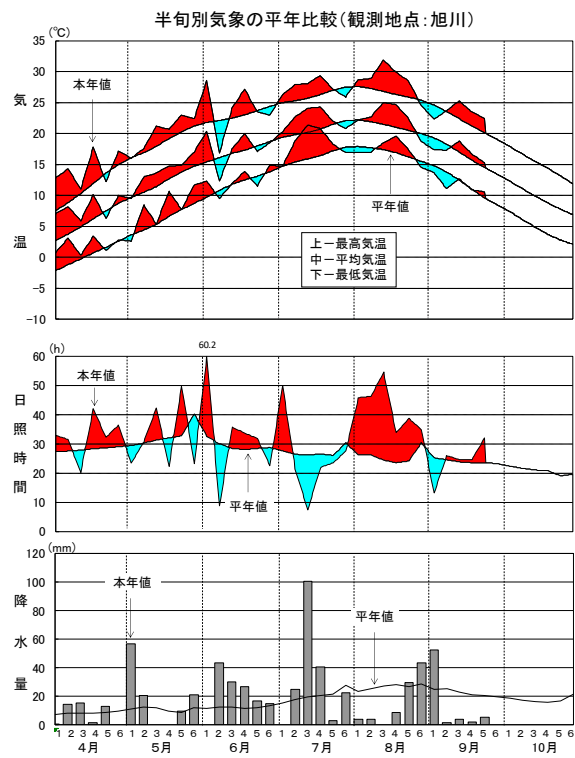
【気象経過】

半旬別気象経過

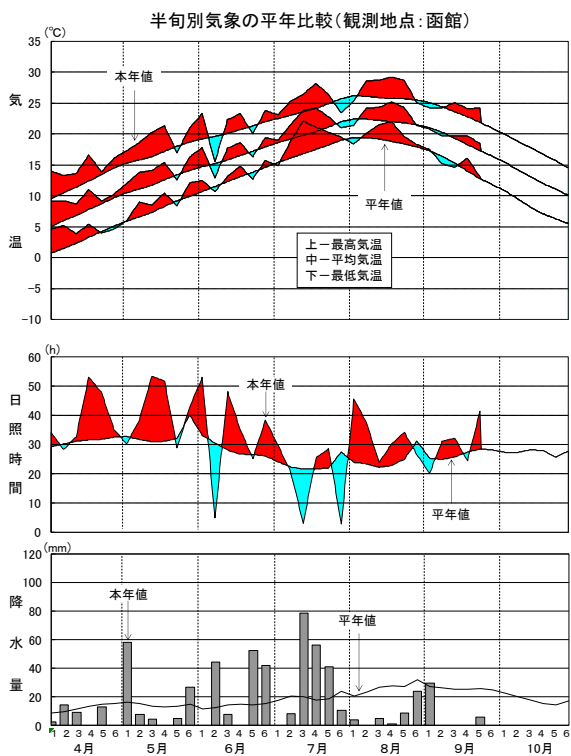
南空知



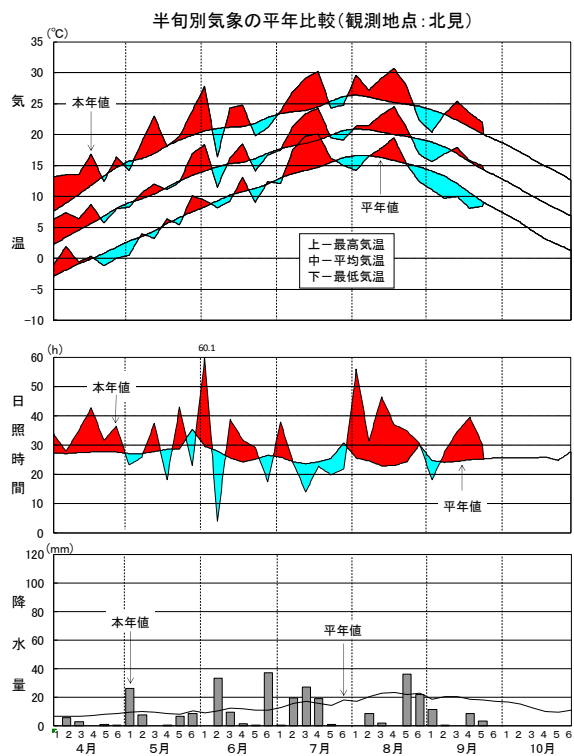
上川



渡島・檜山



オホーツク・十勝

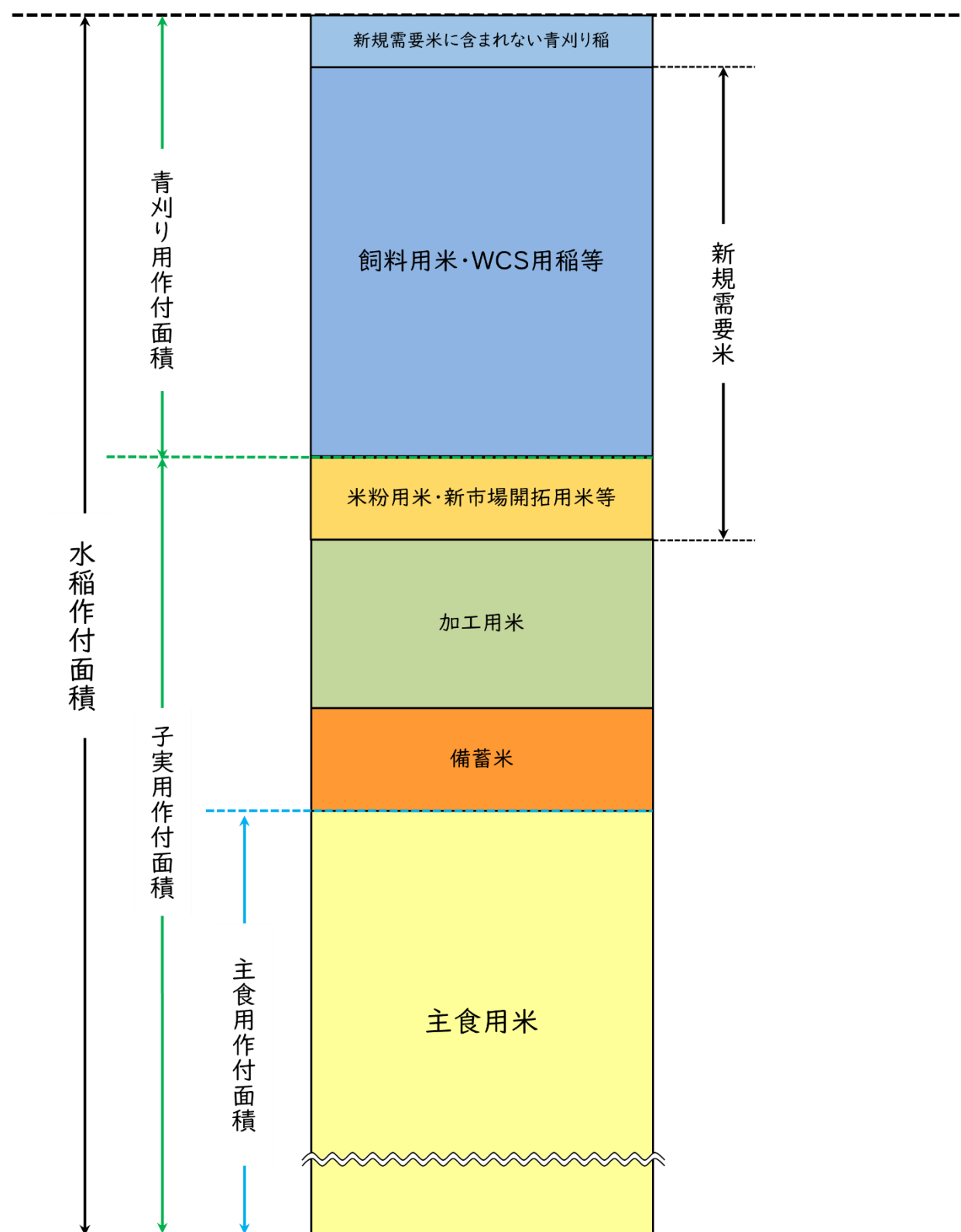


資料：気象庁のアメダスデータを基に、北海道農政事務所で作成。

そのほかの地域の気象経過については、11 ページのホームページ掲載案内を御覧下さい。

【参考 1】

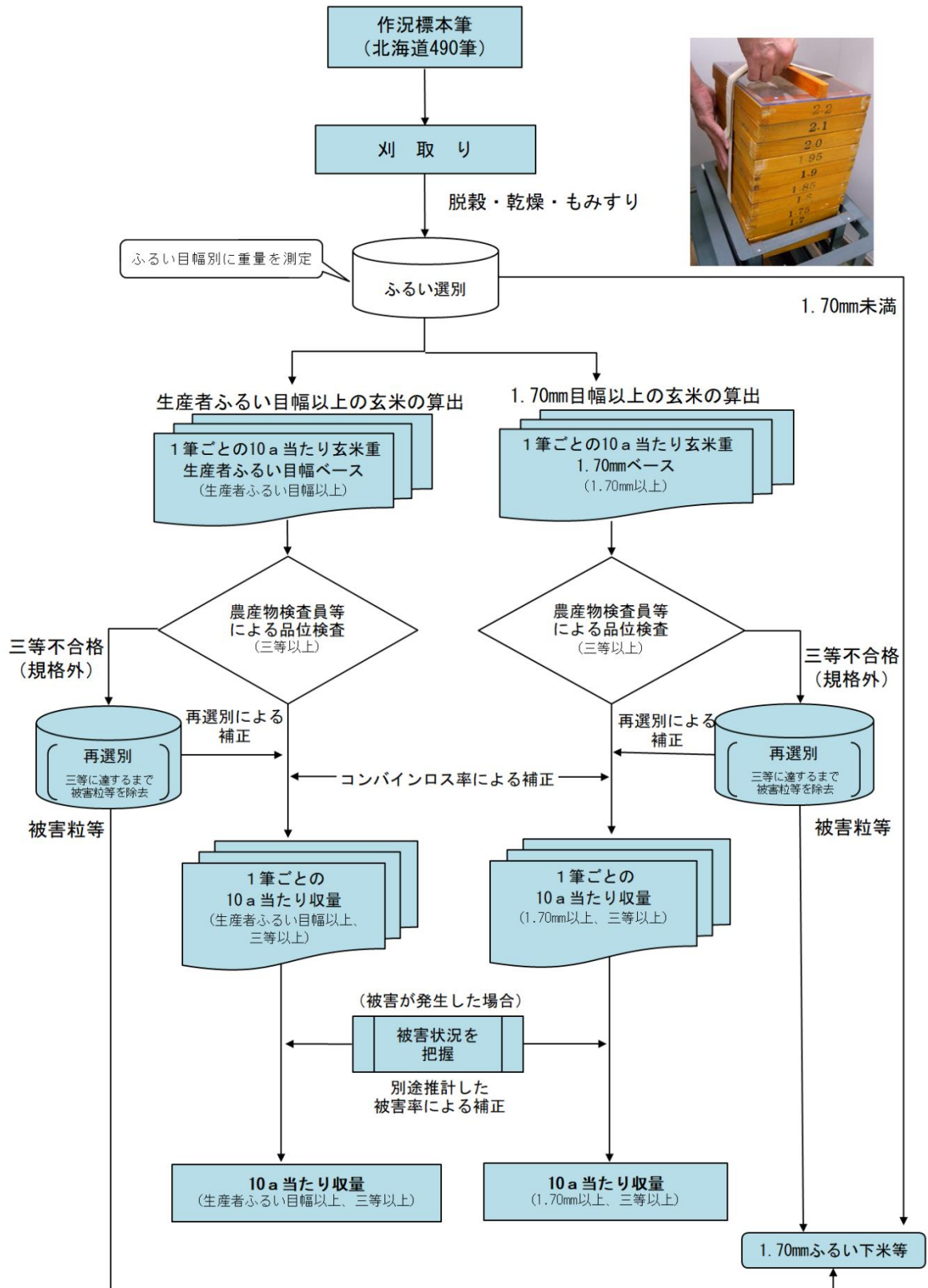
水稻作付面積の概念図



【参考 2】

刈取り調査における 10 a 当たり収量の算出方法

作況標本筆（【参考 3】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位以上に相当するよう選別を行い、その重さを計測し、コンバインロス率及び被害率による補正を行い 10 a 当たり収量を算出している（下図参照）。



【参考3】

作況標本^{ふで}筆とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（1枚のほ場を^{ふで}筆と呼ぶ。）は、北海道の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（北海道で490筆）調査している。

北海道の全ての土地
（母集団）



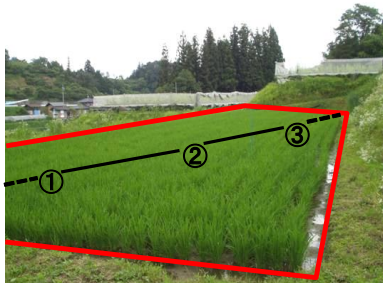
- 1 北海道の全ての土地を400m四方に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（400m四方の土地）



- 2 標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（北海道で490筆）

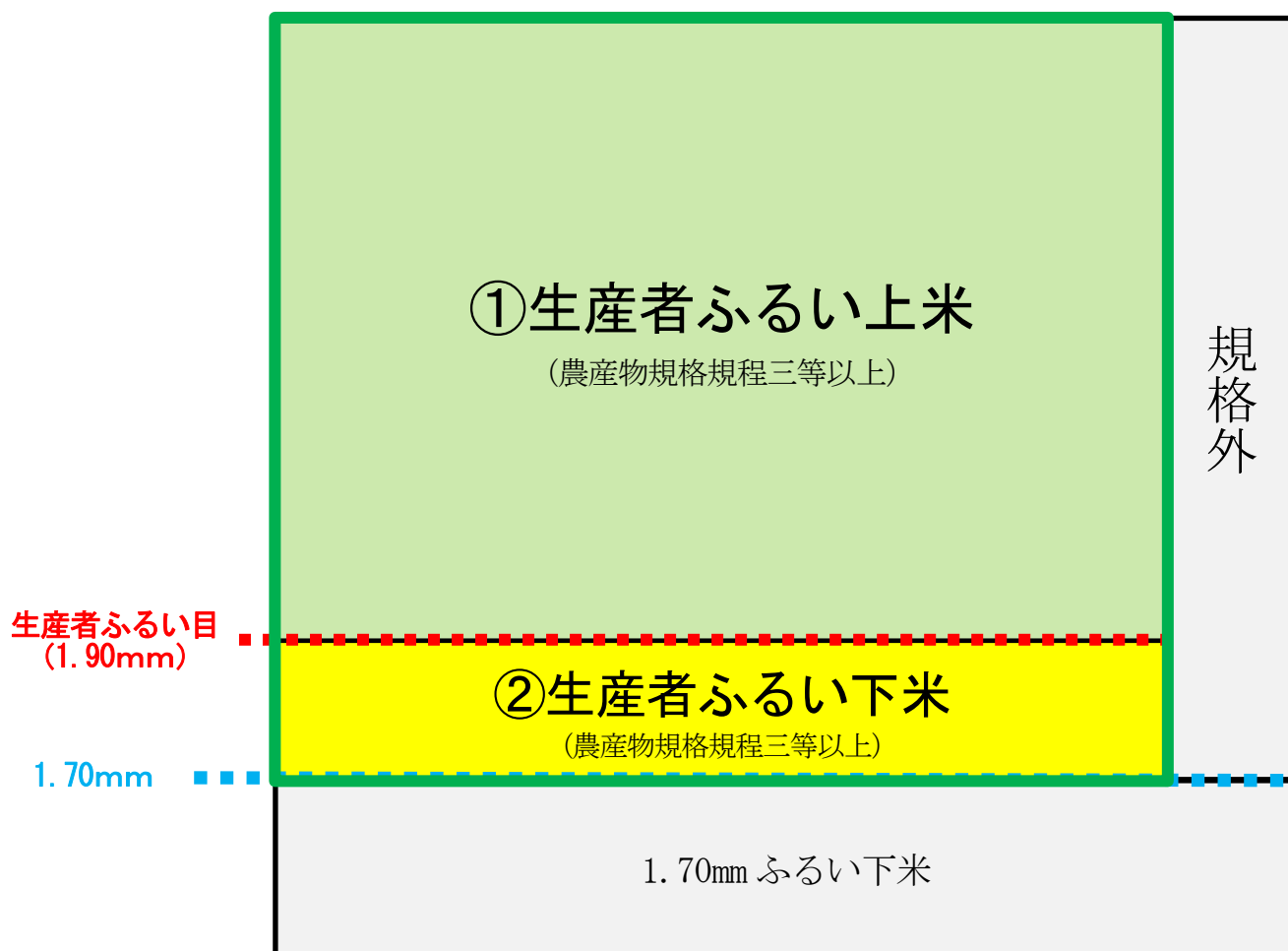


- 3 各作況標本筆の対角線上の3か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに1㎡（合計3㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【参考 4】

水稻収穫量調査の収穫量イメージ

- ① 収穫量（生産者ふるい上米）は、北海道で最も使用されている生産者ふるい目（1.90mm）以上で農産物規格規程三等以上の収穫量を対象としている。
- ② 収穫量（生産者ふるい下米）は、ふるい目幅 1.70mm 以上、農産物規格規程三等以上で生産者ふるい目幅未満の収穫量を対象としている。
- ③ 収穫量（生産者ふるい下米含む）は、①と②をあわせた収穫量（緑枠）を対象としている。



【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【水稻調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 「食料・農業・農村基本計画」における品目ごとの生産量や作付面積等のKPIの設定及び検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

「農林水産統計公表資料」

【 <https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/kikaku/sokuho/> 】



「北海道の気象と作柄」

【 https://www.maff.go.jp/hokkaido/toukei/seisan/kisyo_sakugara/ 】



- ・ 本資料のうち、作付面積は概数値である。
- ・ 次回（10月25日現在）の公表は、令和8年11月中旬の予定である。

お問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
生産流通消費統計課
電 話：011-330-8820

◎農林水産統計全般について

農林水産省 北海道農政事務所 統計部
統計企画課
電 話：011-330-8818



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



○オンラインコミュニティ「みのりボイス」の開設について

水稻生産者や関係機関の皆様が参加できるオンラインコミュニティ「みのりボイス」を開設しました。生産者・農業関係者ならどなたでも参加でき、皆様から共有いただいた全国各地の生育状況や被害情報などを地図上で確認できるほか、農業ニュースや気象情報も閲覧でき、日々の営農判断にもご活用いただけます。

以下の URL または右側の二次元コードから、ぜひご参加ください。

<https://minori-voice.maff.go.jp/lp/>



○水稻収穫量調査の試行調査について

一部の水稻生産者の方々を対象に水稻収穫量調査の試行調査を実施しております。

調査時期 令和8年9月、10月、11月の3回

調査方法 統計調査員による聞き取り、オンライン、郵送のいずれか

オンライン、郵送調査は農林水産省作物統計調査第2次試行調査事務局により実施します。

お忙しいところ大変お手数をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。



2027年国際園芸博覧会
2027.3.19-9.26 横浜・上瀬谷

